

講義名	対)福祉行政と福祉計画			
担当教員	種田 成則			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

**主題と概要**

社会経済の発展とともに、地域や家族機能をはじめとする国民生活の変容やそれに伴う社会福祉理念の変化等を背景に福祉制度は常に見直されてきた。本授業では、社会福祉制度の歴史を振り返りながらそれらの要因を考へてみる。また、老人福祉計画をはじめとするさまざまな福祉計画の目的、内容等を検討しながら今後の社会福祉のあり方を考察する。

**到達目標**

- ・社会福祉制度の歴史及び福祉行政の現状について理解する。
- ・各福祉計画の目的、内容、推進方策について理解する。

**提出課題**

期間中に小テストを行う。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

小テストは授業の理解度を測定するために行う。

**評価の基準**

定期試験の成績を重視するが、小テストの成績も評価の対象とする。

**履修にあたっての注意・助言他**

より理解を深めるためには、日頃から新聞の購読、テレビ等のニュース・報道番組の視聴、インターネットの閲覧を通して、社会福祉をめぐる様々な動向や課題をチェックしておくことを勧める。

教科書				
.使用しない。				

**プリント資料及び参考文献**

適宜レジュメ、資料を配布する。

- 授業計画**
- オリエンテーションとイントロダクション、社会保障について
  - 福祉制度の歴史 (戦前-1950年代)
  - 福祉制度の歴史 (1960-1970年代)
  - 福祉制度の歴史 (1980-)
  - 福祉行政の発給体制
  - 福祉専門機関及び福祉専門職とその役割
  - 福祉財政制度と費用負担
  - 福祉計画の種類、目的と意義
  - 福祉計画策定の方法
  - 老人福祉計画、介護保険事業計画
  - 子ども子育て支援事業計画、次世代育成支援行動計画
  - 障害者計画、障害福祉計画
  - 地域福祉計画、地域福祉活動計画
  - 関連計画(住生活基本計画、医療計画等)
  - まとめ(共生社会の実現に向けて)

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

新聞の購読、テレビ等のニュース・報道番組の視聴、インターネットの閲覧を通して、社会福祉をめぐる様々な動向や課題を日頃からチェックしておくことや、あらかじめ授業計画に沿って関連する項目について各自の問題意識や疑問点を整理しておくこと。(週2時間程度)  
また、授業後は配布された資料や自身のメモをもとに知識を整理し、要点をまとめ理解を深めること。(2時間程度)

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

この授業の到達目標である社会福祉制度の歴史やその仕組み、現状を理解すること、福祉計画の目的等を理解することは、それらが私たちの生活と密接に関連していることを理解し、それらを利用して生活する能力を身につけることである。  
また、将来福祉行政に関わる仕事に就くことを希望している者は、福祉行政に係る基礎的な知識を学ぶことができる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

一時的に通学困難者となった場合は対面授業中での対応とし、オンデマンド授業で代替は行わない。  
対面授業とオンデマンド授業の進行スピード、課題内容が異なることがあるので、オンデマンド受講者の情報は参考にしないこと。